

# 決算説明会

2010年3月期第3四半期

2010年2月2日  
ミネベア株式会社



# 3Q累計連結業績ハイライト

・上半期の低迷が影響し、売上高、利益共低水準

(百万円)	2009年3月期	2010年3月期	前年同期比 伸び率
	1Q-3Q累計	1Q-3Q累計	
売上高	209,780	167,984	-19.9%
営業利益	16,231	6,564	-59.6%
経常利益	14,985	5,017	-66.5%
税引前利益	13,023	4,537	-65.2%
純利益	8,653	3,571	-58.7%
一株当たり 純利益(円)	21.81	9.19	-57.9%

為替レート	09/3期 1Q-3Q	10/3期 1Q-3Q
US\$	103.50円	93.91円
ユーロ	153.34円	132.77円
タイバーツ	3.10円	2.75円
人民元	15.00円	13.74円

2010年2月2日

1



2010年3月期第3四半期累計連結業績は、売上高が前年同期比19.9%減の1,679億8,400万円、営業利益は59.6%減の65億6,400万円、純利益は58.7%減の35億7,100万円となりました。

第3四半期累計では、特に上半期の低迷が尾を引き、売上高、利益共に低水準に留まっています。

円高US\$安を中心とした為替変動による売上高へのマイナス影響や大幅減産による製造原価高の影響もありました。

# 3Q連結業績ハイライト

・販売の増加や原価低減等により、前四半期比で利益が大幅増加

(百万円)	2009年3月期	2010年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	59,166	57,430	58,716	-0.8%	+2.2%
営業利益	4,532	2,720	4,449	-1.8%	+63.5%
経常利益	4,094	2,130	3,988	-2.6%	+87.2%
税引前利益	2,920	2,099	3,808	+30.4%	+81.4%
四半期純利益	2,447	1,315	3,936	+60.8%	3.0倍
一株当たり 四半期純利益(円)	6.24	3.38	10.16	+62.8%	3.0倍

為替レート	09/3期3Q	10/3期2Q	10/3期3Q
US\$	99.17円	94.74円	89.49円
ユーロ	132.72円	134.24円	132.51円
タイバツ	2.85円	2.78円	2.68円
人民元	14.51円	13.85円	13.08円

2010年2月2日

2



一方、2010年3月期第3四半期の連結業績は、売上高が前四半期比2.2%増の587億1,600万円となりました。

利益は大きく増加し、営業利益は前四半期比63.5%増の44億4,900万円、四半期純利益は前四半期比3倍の39億3,600万円となりました。

売上高については、今期はまだ世界景気は前下半期での急減速からの回復途上ではありますが、アジアを中心にパソコン市場向けなど様々な製品の需要回復が顕著になってまいりました。

また利益面では、販売の増加に加え、ボールベアリングの生産増加による製造原価の低下が進んだことや、コスト削減の進展が利益の増加に寄与しました。

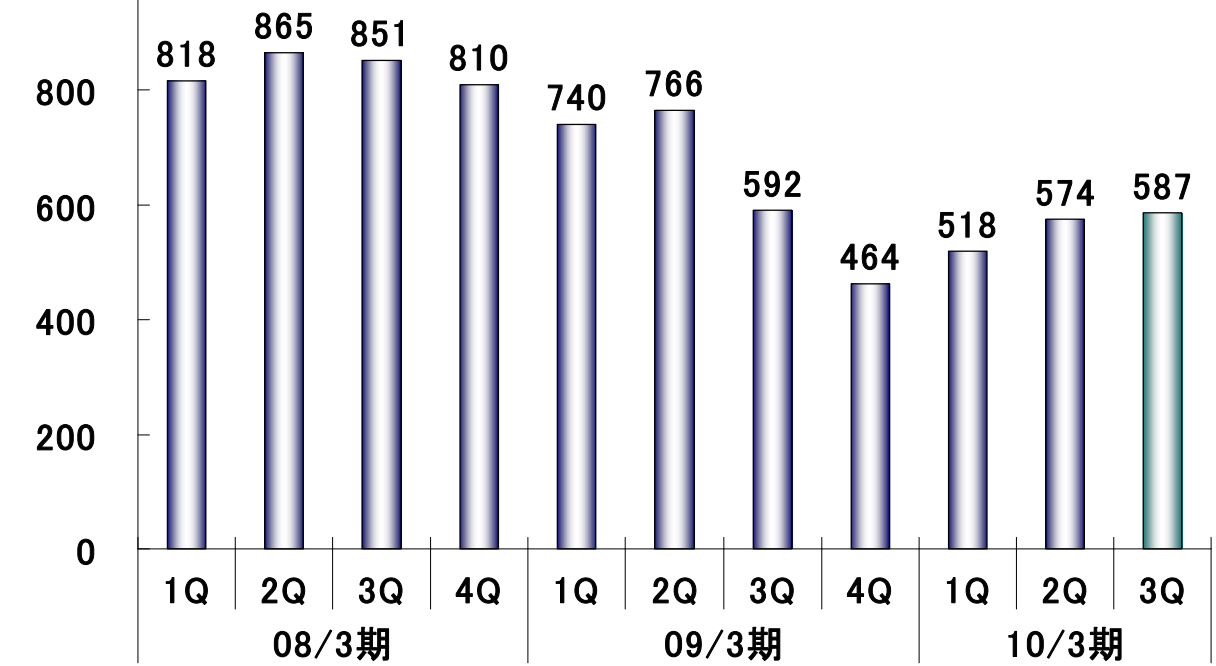
純利益の増加は、米国における約17億円の法人税還付によるものです。

## 四半期推移

# 売上高

(億円)

1,000



2010年2月2日

3

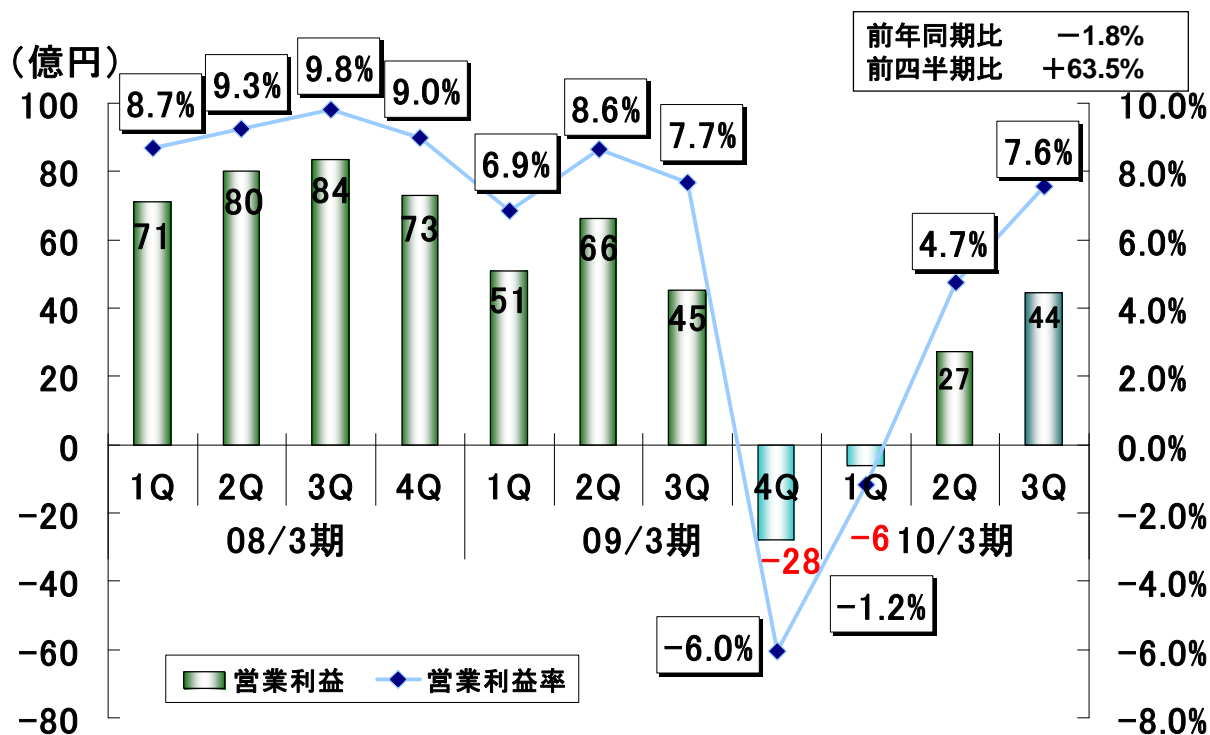
Minebea

今期に入り、売上高は順調に回復してきており、第3四半期の売上高は前四半期比で2.2%増の587億円となり、前年同期レベルまで回復してまいりました。

円高US\$安を中心とした売上高への為替影響は、前四半期比で約19億円のマイナス影響、前年同期比で約33億円のマイナス影響となりました。

## 四半期推移

## 営業利益



2010年2月2日

4

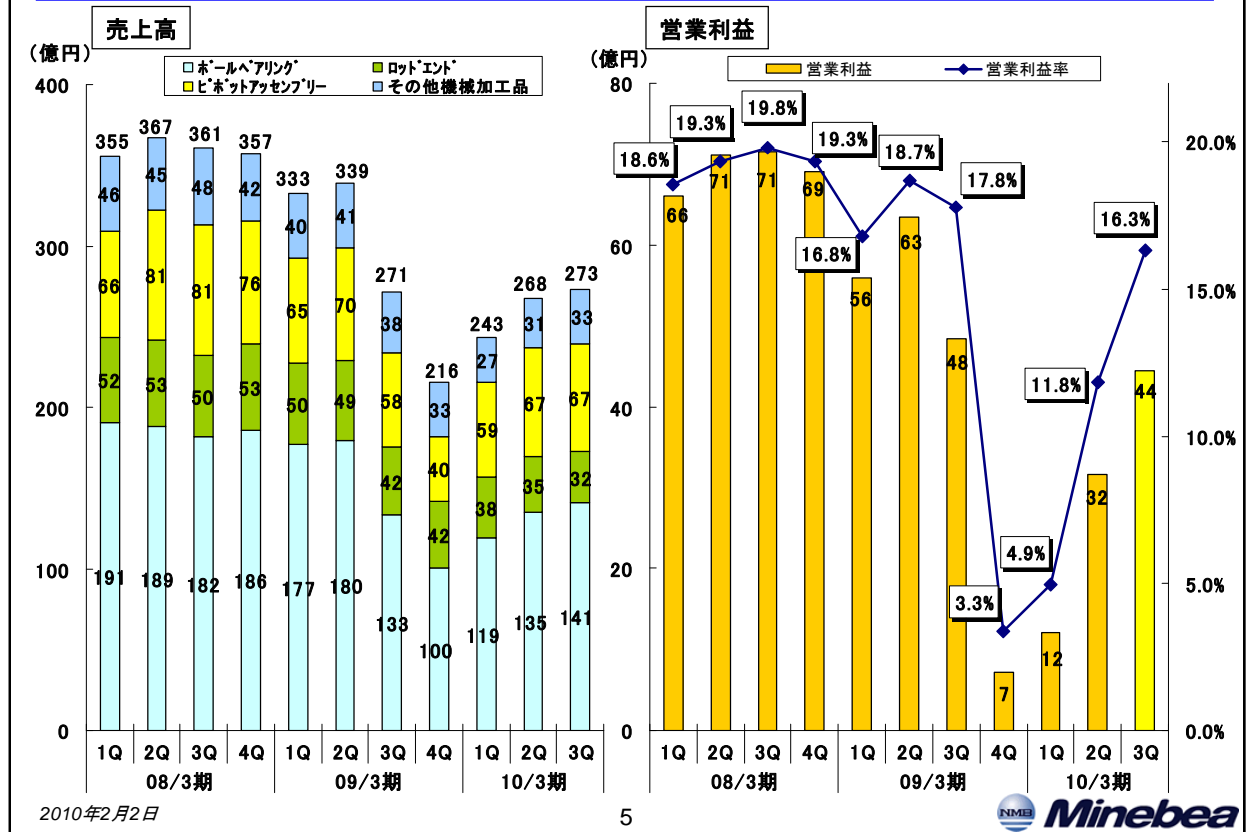
Minebea

今期は、四半期毎に営業利益が回復していましたが、第1四半期では前下半期の減産の影響が大きく、まだ赤字に留まったものの、第2四半期から需要の回復、生産の増加と共に大きく利益が回復しました。第3四半期ではさらに営業利益が増加し、前四半期比で63.5%増の44億円となりました。営業利益率も、2.9ポイントの大幅な改善となり、7.6%まで回復しました。

第1四半期から続いている販売回復による売上高の増加に加え、ボールベアリングの生産増加による製造原価の低下が進んだことや、コスト削減の進展がこの利益回復を支えています。

営業利益への為替影響は、前四半期比で約5,000万円のマイナス影響、前年同期比では約1億円のプラス影響が出ています。

# セグメント別四半期推移 機械加工品事業



機械加工品事業セグメントの第3四半期の売上高は、前四半期に比べて、1.8%増の273億円となり、前年同期レベルまで回復してまいりました。第3四半期はボールベアリングの販売増加が売上高の拡大につながりました。

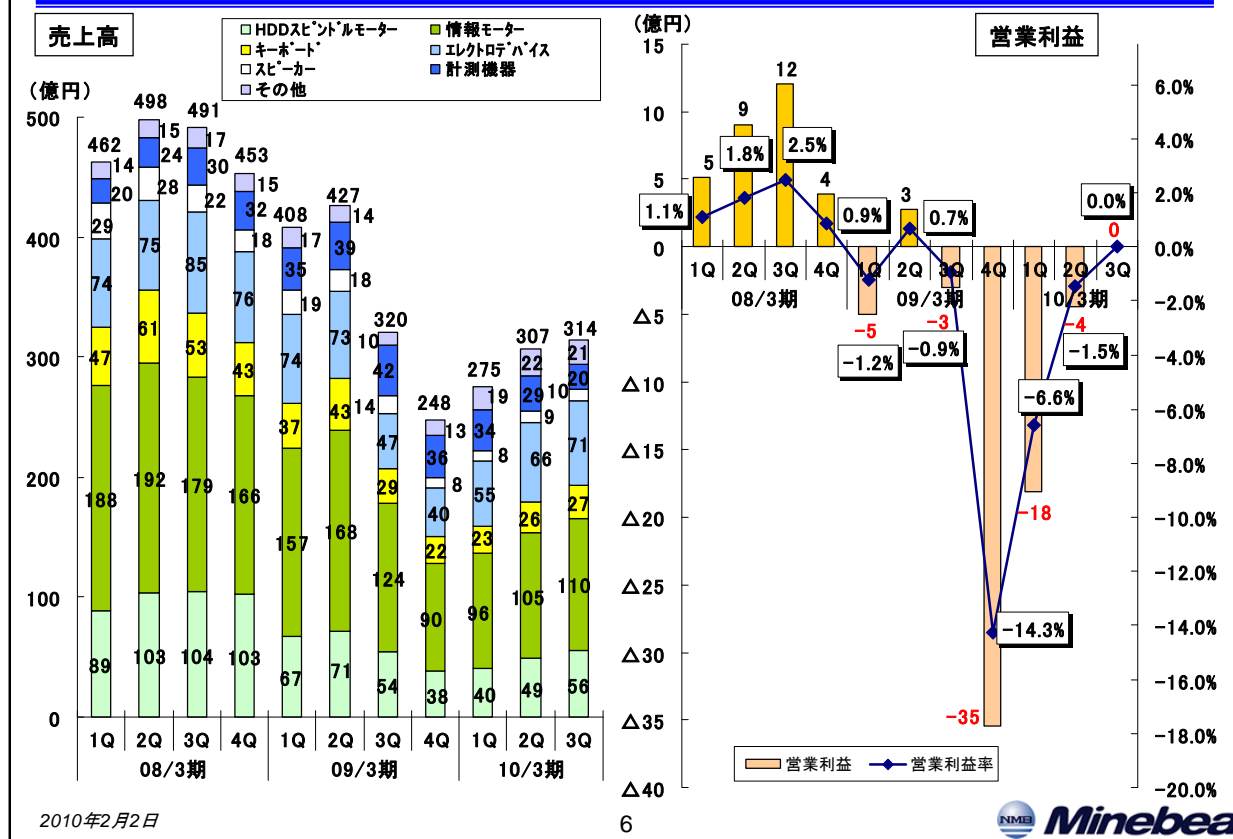
営業利益でも、前四半期に比べて40.3%増の44億円、営業利益率も4.5ポイント上昇の16.3%となり、前年同期レベルにほぼ近づいてきました。これは航空機市場の低迷が続いているものの、その他の製品販売数量が増加したことに加え、コスト削減効果の進展もありました。特にボールベアリングの生産増加による製造原価の低下が、大きく利益向上に寄与しています。

製品別では、ボールベアリングの第3四半期売上高は、ミニチュア・小径ボールベアリングの販売が増加し、前年同期比で6%の増加、前四半期比でも4%の増加となりました。利益面でも第3四半期は、販売数量の増加、コスト削減の進展、さらに生産増加による製造原価低下が進み、前四半期に比べて利益が大きく増加しました。第4四半期からは今後の旺盛な需要に対応するため、さらなる増産対応を行ってまいります。

ロッドエンドの第3四半期売上高は、市場の縮小と円高US\$安が大きく影響し、前年同期比で24%の減少、前四半期比でも9%の減少となりました。利益面でも、前四半期に比べ損益は悪化し、赤字となりました。コスト削減に努める一方で、今年後半に予想する需要回復にも備えていきたいと思っております。

ピボットアッセンブリーの第3四半期売上高は、販売数量の増加により前年同期比では16%の増加、前四半期比では販売数量は増加したものの、円高US\$安の影響があり横ばいとなりました。HDD市場の活況により、販売数量は4月から大きく増加に転じ、第3四半期では過去最高レベルの販売数量を維持し続けました。利益面では、第3四半期は前四半期に比べ、売上高が横ばいだったこともあり、利益も横ばいとなりました。今後もHDD市場の拡大が見込まれるため、早急に生産能力増強を行ってまいります。

# セグメント別四半期推移 電子機器事業



2010年2月2日

6



電子機器事業セグメントの第3四半期の売上高は、計測機器での販売減少があったものの、モーター製品やLEDバックライトの販売が増加したことにより、前四半期に比べて2.6%増の314億円となり、ほぼ前年同期レベルの売上高まで回復してまいりました。営業利益では、前四半期に比べて4億円改善し、わずかではありますが黒字転換しました。売上高の増加に加え、コスト削減効果の進展も見られました。

製品別では、HDDスピンドルモーターの第3四半期売上高は、円高US\$安の為替影響があったものの、販売数量の着実な増加により、前年同期比で4%の増加、前四半期比では14%増と大きく増加しました。さらに高付加価値製品である2.5インチHDD向けの販売数量が大きく増加してきており、製品ミックスの改善がさらに進みました。利益面では、販売数量の増加や、製品ミックスの改善、コスト削減の進展などの結果、前四半期に比べ赤字が縮小しました。第4四半期には更なる販売数量の増加が見込まれており、月次収支均衡化を見込んでいます。

情報モーターの第3四半期売上高は、前年同期比では11%の減少でしたが、前四半期比ではステップモーターなどの販売数量が増加し、5%の増加となりました。利益面でも黒字に転換いたしました。今後とも販売の拡大、製品ミックスの改善、コスト削減に努めてまいります。

キーボードの第3四半期売上高は、前年同期比では7%の減少、前四半期比では4%の増加となりました。利益面でも、前四半期比で赤字が縮小しました。更なる収支改善に向け、コスト削減を押し進めていきます。

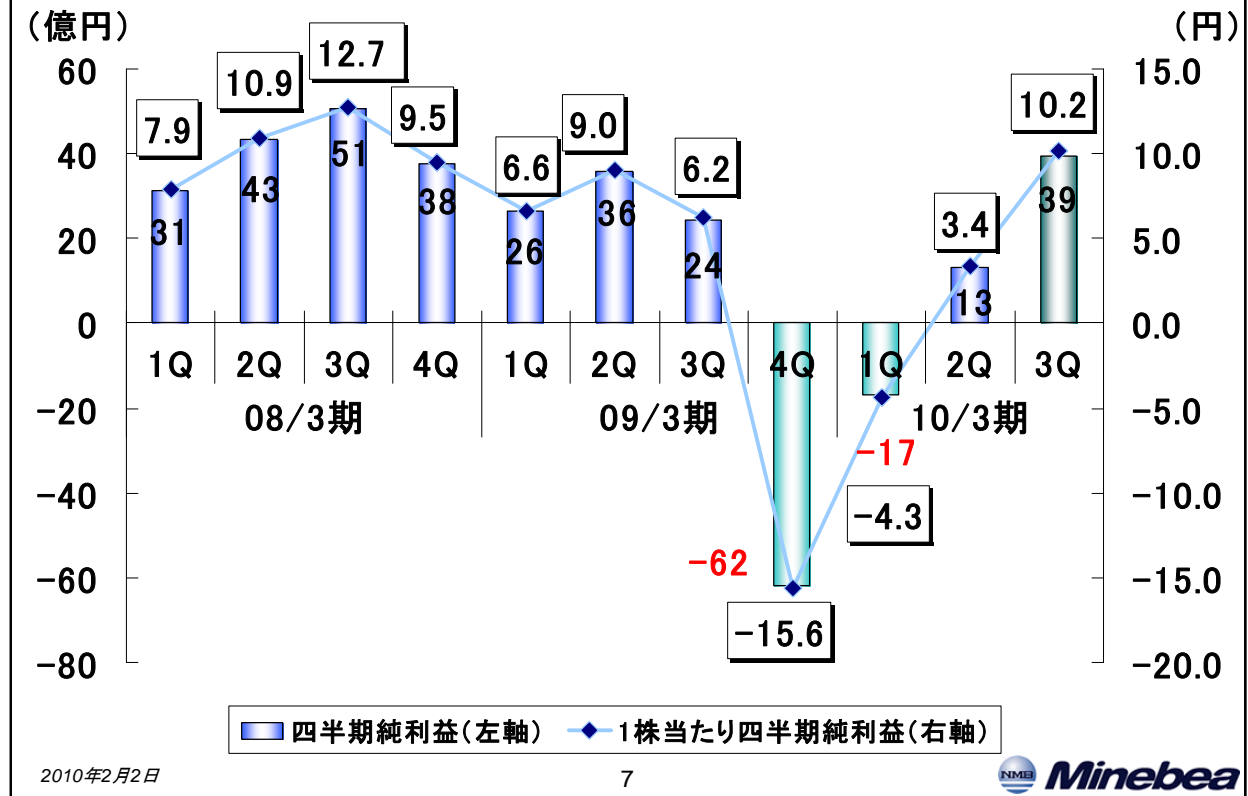
エレクトロデバイスの第3四半期売上高は、前年同期比51%増と大きく増加し、前四半期比でも8%の増加となりました。競合他社の撤退・縮小や販売の拡大によりLEDバックライトの売上高が大きく増加しております。利益面でも前四半期に比べ黒字が拡大しました。今後とも、LEDバックライトの販売はさらに拡大する見込みであり、第3四半期中に生産能力増強を行いました。

スピーカーの第3四半期売上高は、前年同期比29%の減少、前四半期比では11%の増加となりました。まだ本格的な売上の回復には至っておらず、利益面では引き続き若干の赤字でした。今後とも製品ミックスの改善、売上の拡大、コスト削減に取り組んでいきます。

計測機器の第3四半期売上高は、前年同期比で52%減、前四半期比でも31%減と大きく減少しました。これは、ゲーム機向け製品販売が減少したことが主な要因です。売上の減少に伴い、利益も前四半期に比べ大きく減少しました。

## 四半期推移

## 四半期純利益



第3四半期の当期利益は、営業利益が大きく増加したことに加え、米国における約17億円の法人税還付があり、前四半期に比べて26億円増加し、3倍増の39億円となりました。

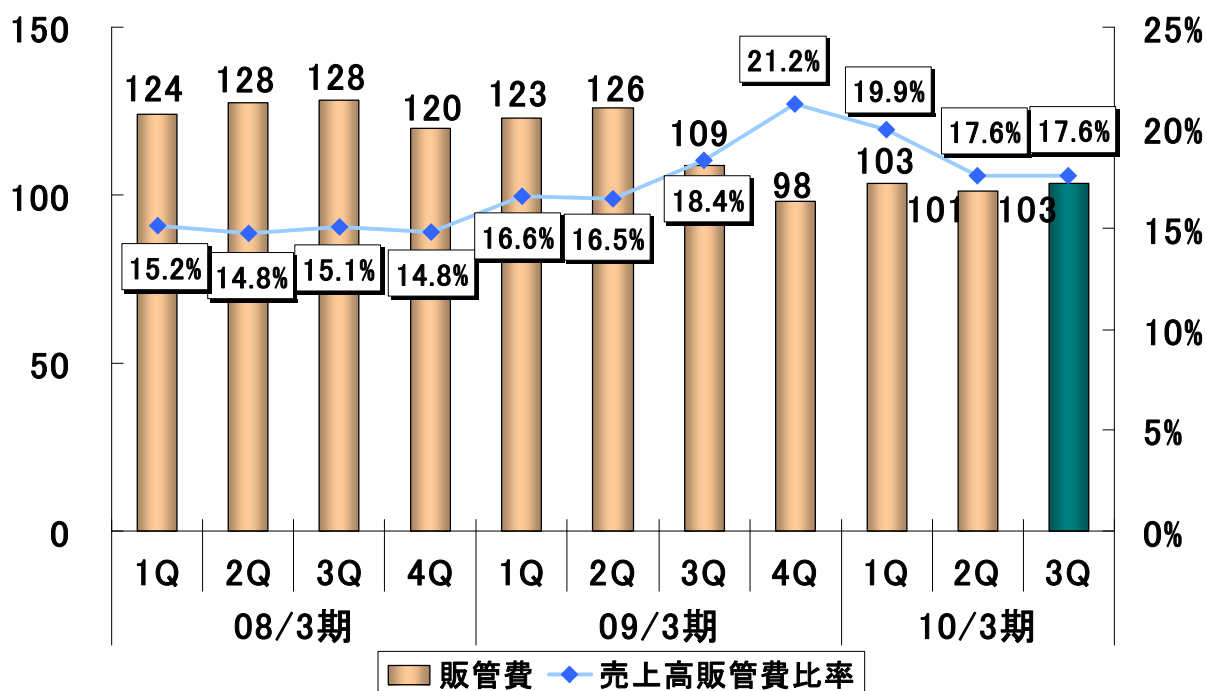
一株当たり四半期純利益も前四半期に比べて6.8円改善し、10.2円となりました。



## 四半期推移

## 販管費

(億円)



2010年2月2日

8

Minebea

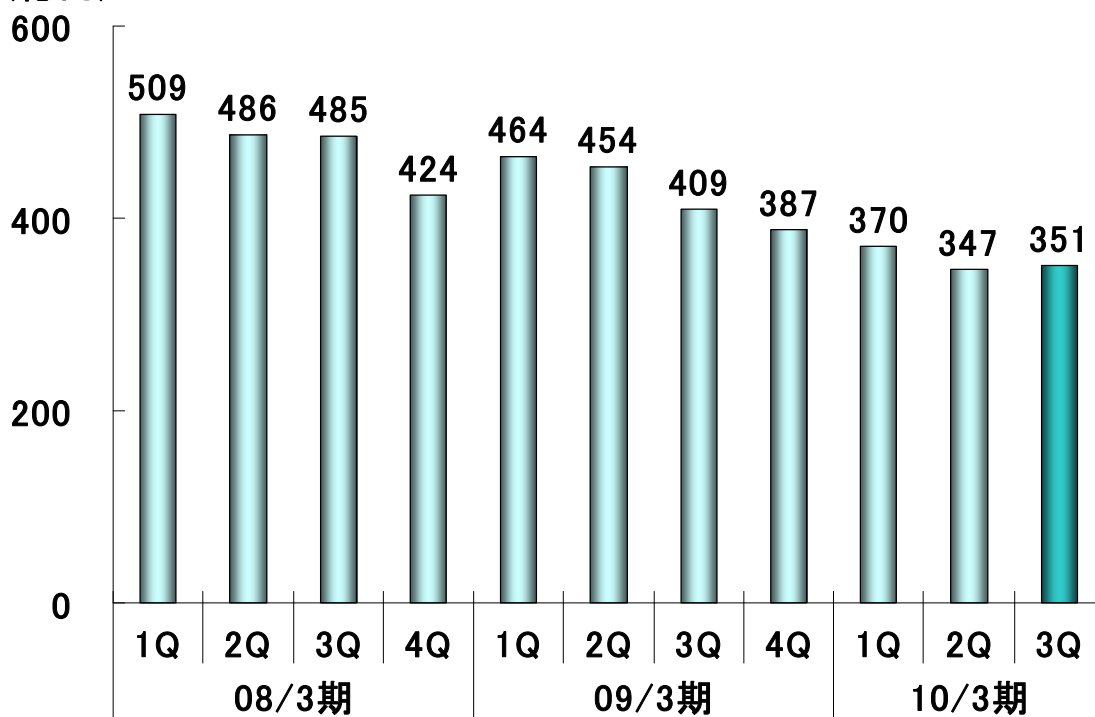
第3四半期の販管費は、販売の増加に伴い、前四半期と比べて2億円増加の103億円でした。また、売上高販管費率は為替による売上高への悪影響があったものの、一方で経費節減を進め、前四半期と同じ17.6%となりました。

今後も、トップダウンとボトムアップの両方からさらなる経費節減を進め、利益体質の強化に努めていきます。

## 四半期推移

## たな卸資産

(億円)



2010年2月2日

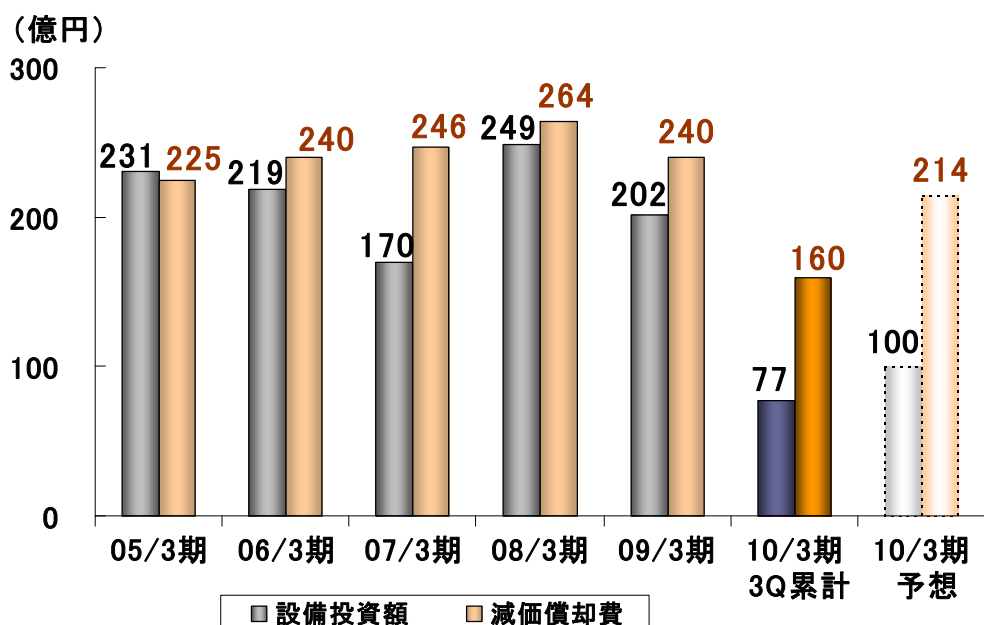
9

 Minebea

第3四半期は、前四半期に比べ4億円増加しました。

これは、主に四半期期末為替レートでの円安影響によるものです。

## 年推移 設備投資額・減価償却費



※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2010年2月2日

10

Minebea

第3四半期累計の設備投資額は77億円でした。

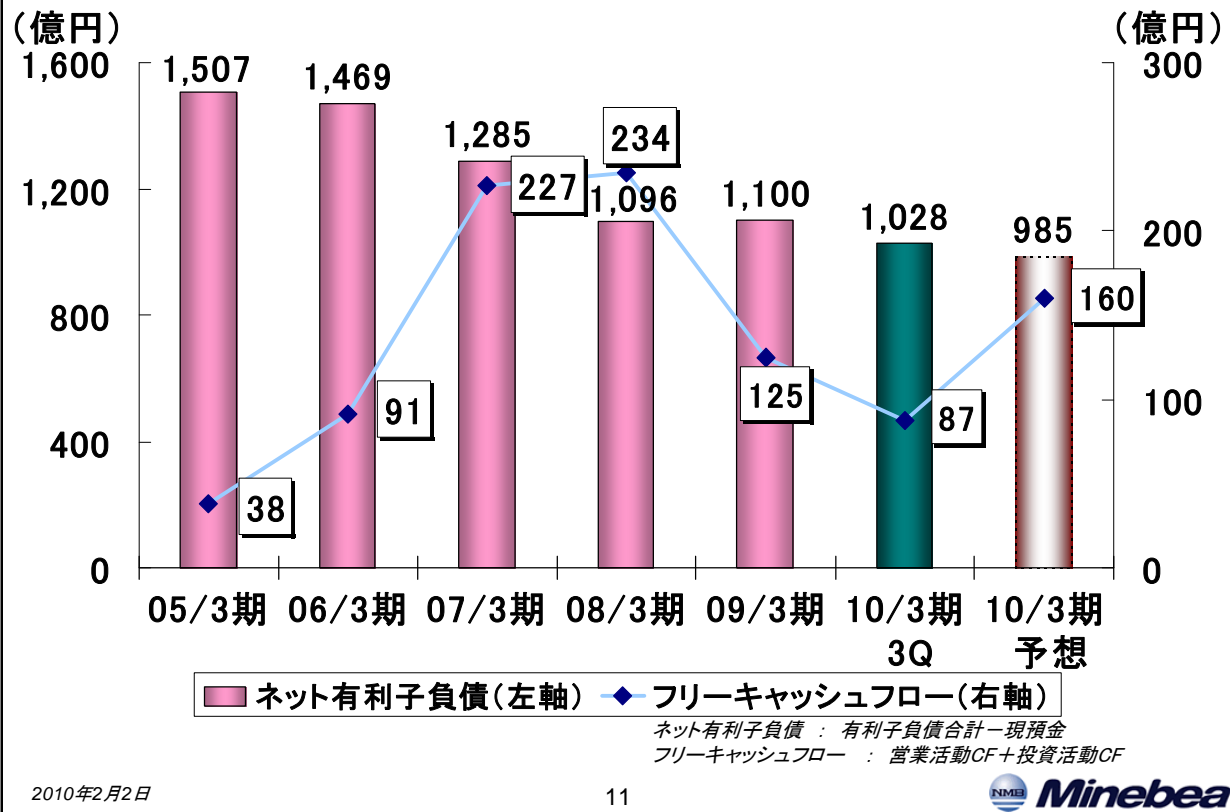
主な投資先としては、設備の保守・更新投資に加え、LEDバックライトの生産能力増強投資などがありました。通期予想につきましては、100億円の計画から変更はありません。

世界経済の回復と共に一部の事業では設備能力増強の必要が出てきておりますので、今後は成長に必要な投資を継続しつつ、投資効率の向上とフリーキャッシュフローの維持・向上を図ってまいります。

減価償却費は、160億円でした。通期予想は、214億円の計画から変更はありません。

## 年推移

# ネット有利子負債



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の年ごとの推移です。

第3四半期末のネット有利子負債は1,028億円と、前期末から72億円の減少でした。前四半期比では、中間配当金の支払いやE-Ship導入による支払いに加え、年末のボーナスの支払いがあったものの、純利益が増加したことと設備投資抑制により現預金が増えたため8億円の減少となりました。また、第3四半期累計のフリーキャッシュフローは87億円となりました。今後とも引続きキャッシュフロー創出に注力してまいります。一方で、経営環境を総合的に判断し、積極的なM&Aや株主還元策なども引き続き検討、実施してまいります。

# 業績予想

通期業績予想をこれまでのレンジ表記から変更致します

(百万円)	2009年3月期 通期	修正通期予想	2010年3月期予想		
			前期比	従来通期予想	
				上限	下限
売上高	256,163	225,000	-12.2%	230,000	200,000
営業利益	13,406	11,000	-17.9%	14,000	10,000
機械加工品	17,468	12,900	-26.2%	15,400	13,100
電子機器	△4,062	△1,900	—	△1,400	△3,100
経常利益	11,555	9,000	-22.1%	11,300	7,600
税引前利益	6,834	8,000	+17.1%	11,100	7,400
純利益	2,441	5,500	2.3倍	6,500	3,500
一株当たり純利益(円)	6.18	14.17	2.3倍	16.71	9.00

為替レート	09/3期	10/3期想定
US\$	100.83円	93.46円
ユーロ	145.65円	132.58円
タイバーツ	2.98円	2.75円
人民元	14.64円	13.68円

2010年2月2日

12



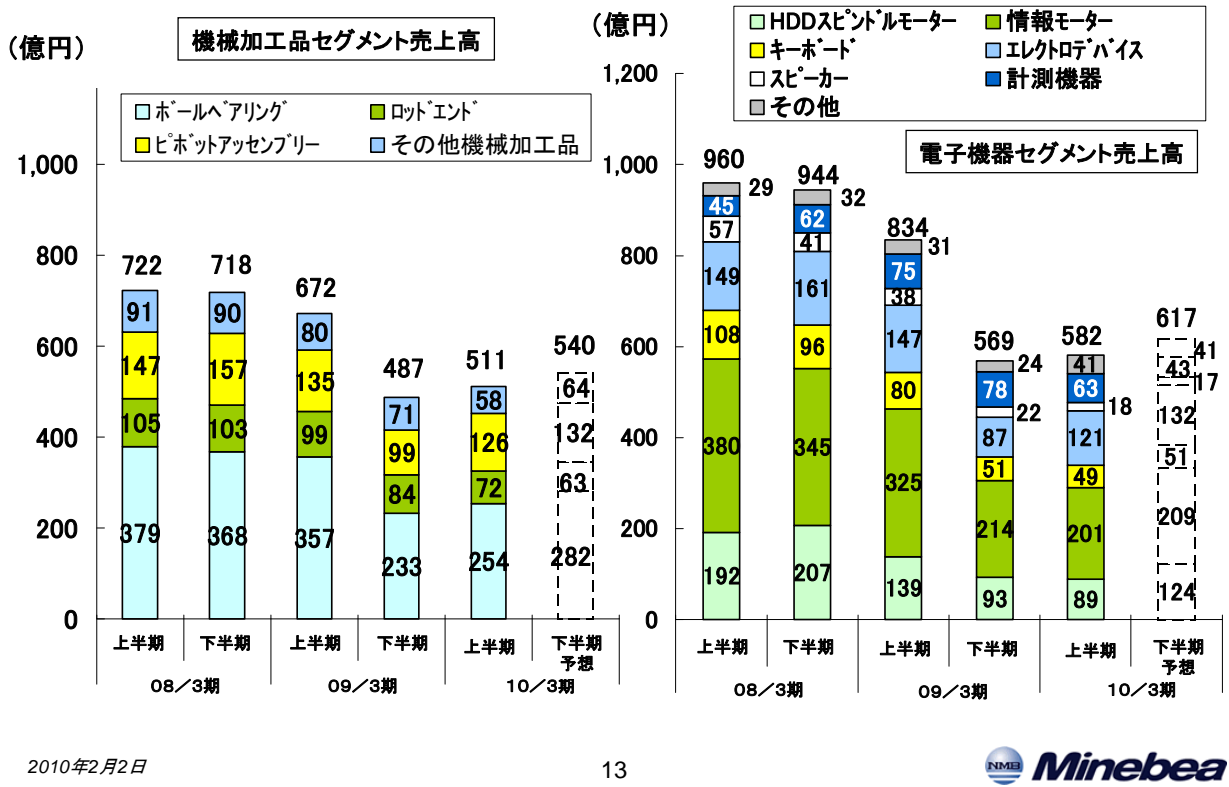
通期業績予想については、第3四半期までの実績を踏まえ、上限下限のレンジ表記ではなく、単一表記に変更いたしました。

売上高は前期との比較では、M&Aによる新規売上やピボットアッセンブリー、LEDバックライトの売上増加を見込んでいるものの、それ以外の製品では販売がまだ回復途上にあることや円高US\$安の為替影響があり、12.2%減の2,250億円を見込んでおります。

営業利益は、ピボットアッセンブリー、LEDバックライトが大きく黒字化し、HDDスピンドルモーター、情報モーター等において赤字の縮小が進むものの、主力のボールベアリングの利益が回復途上であること、ロッドエンドや計測機器の利益も減少することが予想されるため、前期比17.9%減の110億円を見込みます。

純利益につきましては、第3四半期で米国における約17億円の法人税還付があったこともあり、前期比2.3倍の55億円を見込んでいます。

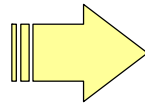
# セグメント別売上高予想



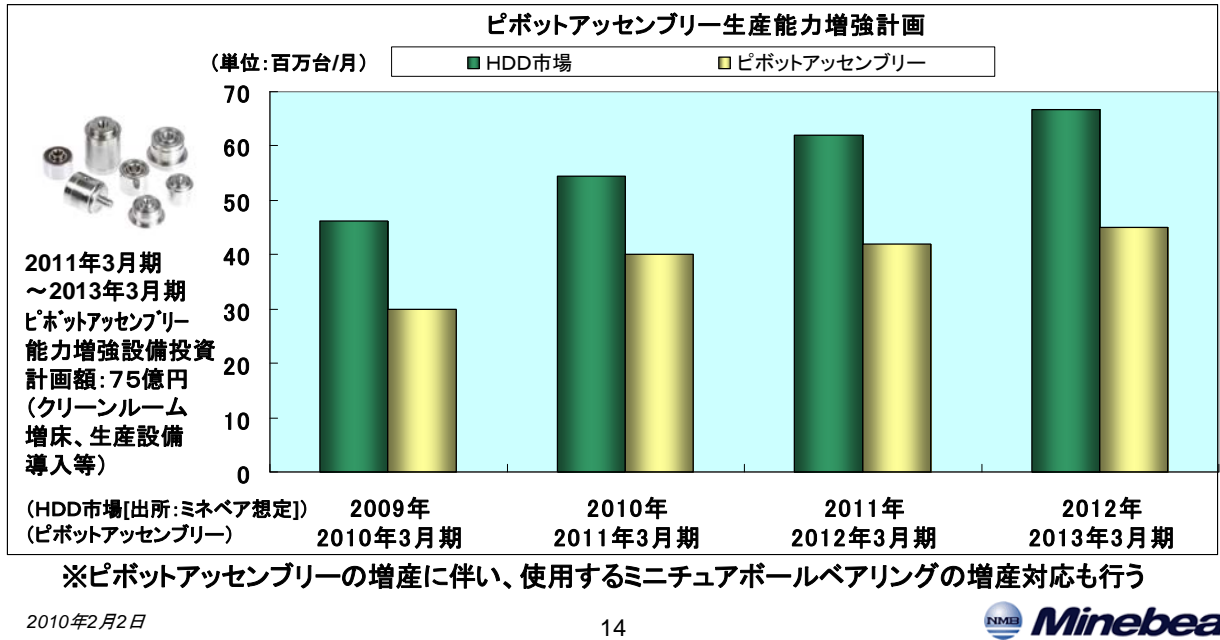
これは修正しました個別事業毎の下半期売上見込みと、過去の半期実績をグラフにしたものです。

# ピボットアッセンブリー生産能力増強

今後のHDD市場は  
再加速の見通し



今後3年間で  
ピボットアッセンブリーの  
生産能力を約1.5倍に



次に、ピボットアッセンブリーの生産能力増強について、ご説明致します。

HDD市場では、ネットブックを代表とするパソコンやクラウドシステム向けストレージなど様々な用途で需要が増加しております。

この旺盛な需要に応えるため、今後3年間でピボットアッセンブリーの生産能力を約1.5倍に拡大し、月産4,500万台に増強してまいります。

設備投資は3年間で75億円を計画しており、クリーンルームの増床や新規生産設備の導入を行ってまいります。また、ピボットアッセンブリー1個の中に2個使用されるミニチュアボールベアリングの増産対応も合わせて行ってまいります。

ミネベアは、ピボットアッセンブリー世界シェア60%のNo.1メーカーとして、拡大するHDD市場の要求に今後も応え続けていきます。

また、ボールベアリングにつきましては、その他の需要の増加も見込めるため、現有工場の効率化や人員の増員を行い、中期的に月産2億4,000万個体制を目指してまいります。

# 自社株買い

## 自社株買い決議(2010年2月2日)

取得株式総数:上限 500万株

〔発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.29%〕

取得株式総額:上限 25億円

取得期間 :2010年2月3日から3月24日まで

理由 :経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため

## 財務戦略

- ・ネット有利子負債は中期目標水準である1,000億円を今期末に達成する見込み。
- ・キャッシュフローの創出に注力。また、経営環境を総合的に判断し、積極的なM&Aや株主還元策などを検討、実施。

2010年2月2日

15



最後に、本日発表しました自社株買いについてご説明いたします。

2008年に続き、弊社として二度目の自社株買いになりますが、取得株式上限500万株、または取得総額上限25億円の自社株買い枠を本日の取締役会において、決議いたしました。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするためです。

これまでミネベアは、財務体質の強化を目指し、ネット有利子負債削減に取り組んでまいりました。その結果、今期末のネット有利子負債は中期目標水準である1,000億円を達成できる見込みです。

今後とも、キャッシュフローの創出に注力し、また経営環境を総合的に判断し、積極的なM&Aや株主還元策を検討、実施してまいります。



# ミネベア株式会社

## 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2010年2月2日

